

[野菜部門]

2. 高温期に稔性花粉が多く、裂果の少ないトマト品種「麗夏」

[要約]

「麗夏」は高温期の雨除け栽培で、稔性花粉量が多い、着果率が高い、裂果が少ない、収量が多い等の特長があり、有望である。

[担当] 野菜・花研究室

[連絡先] 電話 086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

トマトの雨除け栽培では夏期の高温化によって、稔性花粉量の減少による着果率の低下と裂果の増加に伴う収量の減少が懸念される。そこで、雨除け栽培用品種について、高温期の稔性花粉量、着果率、裂果発生率、収量等を調査し、高温環境でも収量低下の少ない品種を選抜する。

[成果の内容・特徴]

1. 稔性花粉重量は、いずれの品種も2～6段花房で多く、高温期に開花する8～12段花房で少ない。「麗夏」および「桃太郎サニー」の稔性花粉重量は「桃太郎8」（対照）より多い（表1）。
2. 着果率は、いずれの品種も1～6段果房で高く、7～12段果房で低い。7～12段果房の着果率は「麗夏」および「りんか409」が他の品種より高い（表1）。
3. 裂果発生率は「麗夏」が最も低く、次いで「りんか409」が低い。高温期に発生が多い放射状のくず裂果率は、「麗夏」が他の品種に比べて極めて低い（表2）。
4. 他の品種のくず裂果率の高まる8月上～下旬に「麗夏」のくず裂果率は極めて低い（図1）。
5. 可販果収量は「麗夏」が最も多く、可販果1果重も最も重い（表3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「麗夏」の裂果は他の品種に比べて少ないが、栽培の経過に伴って増加する傾向がある。
2. 「麗夏」のBrixは他の品種に比べてやや低い傾向がある。
3. 慣行の「桃太郎8」に比べて初期生育が旺盛なので、着果負担が掛かるまで過繁茂に留意する。

[具体的データ]

表1 稔性花粉重量及び着果率の品種間差異

品種名	育成元	稔性花粉重量 (µg/葯)			着果率 (%)		
		1～6段	7～12段	全花房	1～6段	7～12段	全果房
		花房	花房		果房	果房	
麗夏	サカタ	30.8	11.1	21.0	80.1	49.2	64.3
りんか409	サカタ	9.2	2.1	5.7	76.7	48.8	64.1
桃太郎グランデ	タキイ	11.1	2.0	6.5	85.3	42.7	61.2
桃太郎ファイト	タキイ	21.0	3.2	12.1	86.5	33.2	59.9
桃太郎サニー	タキイ	34.1	10.1	22.1	87.7	38.5	64.9
桃太郎ギフト	タキイ	9.5	2.3	5.9	80.7	21.6	50.8
桃太郎なつみ	タキイ	9.3	1.8	5.5	82.4	23.9	58.5
桃太郎8 (対照)	タキイ	24.3	8.0	16.2	86.9	35.1	64.7

表2 裂果発生率の品種間差異

品種名	全裂果率 (%)	放射状裂果発生率 (%)	
		くず裂果	可販裂果
麗夏	25.6	5.6	18.2
りんか409	36.5	20.1	14.0
桃太郎グランデ	40.8	12.1	28.7
桃太郎ファイト	48.2	17.4	28.8
桃太郎サニー	53.1	21.6	30.3
桃太郎ギフト	56.5	23.3	32.9
桃太郎なつみ	40.7	13.9	25.7
桃太郎8 (対照)	46.1	20.2	24.2

表3 可販果収量、可販果1果重及びBrixの品種間差異

品種名	可販果収量 (kg/株)	可販果1果重 (g)	Brix (%)
麗夏	4.9	195	4.5
りんか409	3.7	172	4.8
桃太郎グランデ	3.5	179	4.7
桃太郎ファイト	3.4	155	5.1
桃太郎サニー	3.5	174	5.0
桃太郎ギフト	3.3	169	5.0
桃太郎なつみ	3.4	147	4.8
桃太郎8 (対照)	3.6	174	5.0

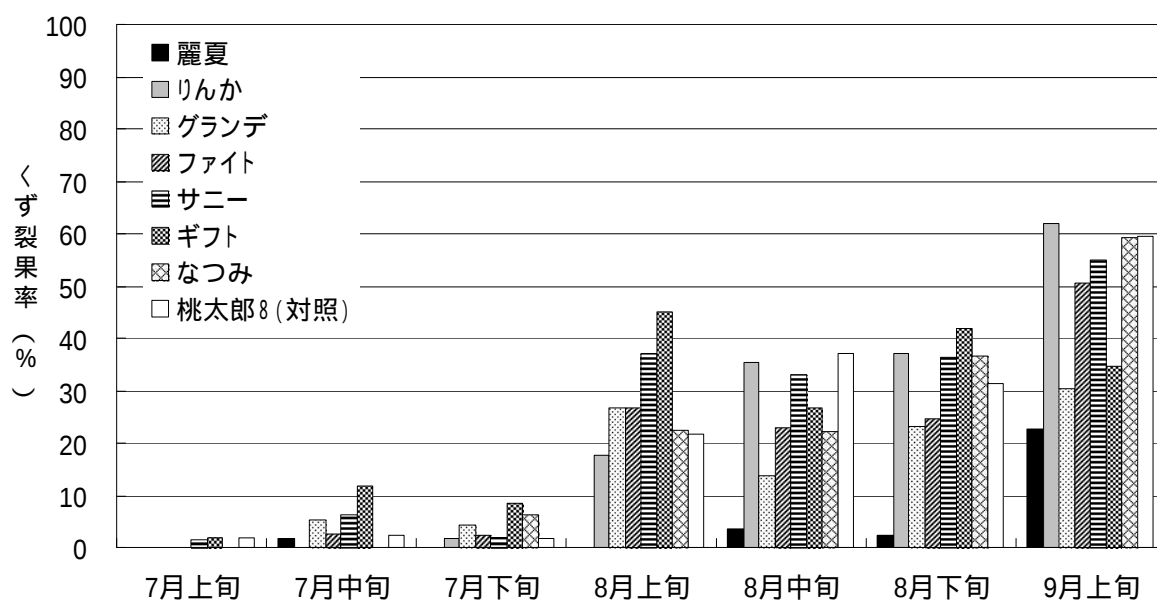


図1 旬別くず裂果率

[その他]

研究課題名：夏秋トマトの夏期高温化に対応した品種の選定

予算区分：県単

研究期間：2009～2011 年度

研究担当者：飛川光治